

# 雨乞

雨乞  
雨乞

千草の町並を通り抜け県道を北へ約十一キロ余り、西河内部落を過ぎ、鍋ヶ谷林道に入っていくと左手に、うっそうと繁った森が見えてくる。

昼間でも薄暗い森の中へ参道を進んで行くと境内正面に、一段高く組まれた玉垣の中に二メートル余りはあるだろうか、自然石の立派な碑が建っている。



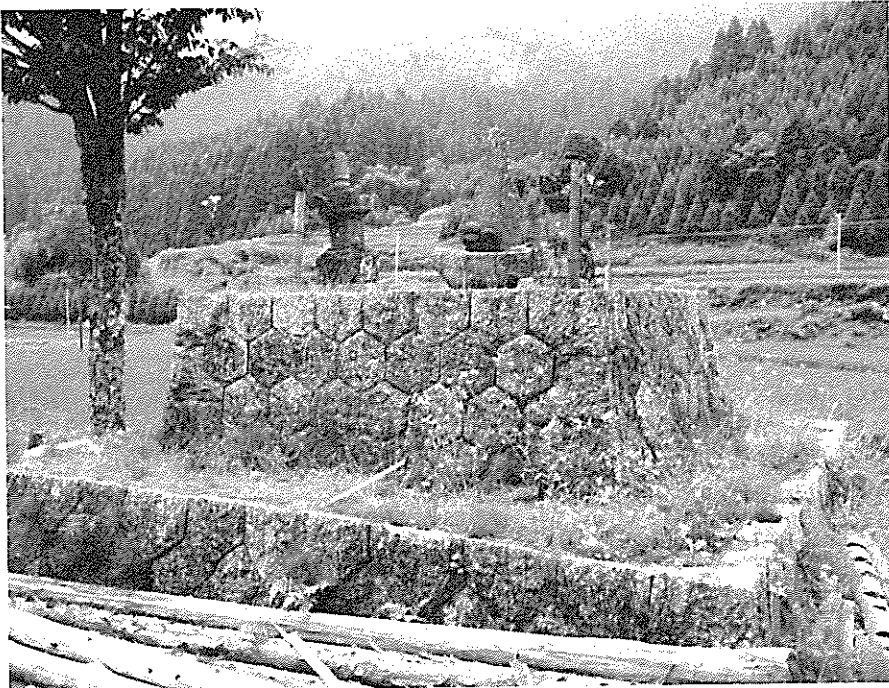
西河内鍋ヶ森神社

碑には「元鍋ヶ森神社鎮座地」と書かれてある。大正六年（一九一七）西河内部落内にある村社峯王神社に合祀されるまで、

此の地には立派な社があり雨乞の神様として信仰を集め、旱魃

の年には、村内はもとより、遠く岡山、鳥取県方面からも雨乞祈願に参詣され、今でも毎年のように鳥取県や東播方面からも参詣されている。

大正元年（一九一二）に発行されている千種村誌によると、無格社鍋ヶ森神社ハ村ノ北部字森ノ口ニアリ豊玉比賣命ヲ祀ル永承七壬辰年（一〇五二）八月十三日ノ勧請ニシテ祭主 出羽国佐藤盛唯ナリト伝ウ



宝篋印塔

と記されており、明治四未五月（一八七二）神社取調書上帳には、

鍋ヶ森明神 但 式外

一、祭神 豊玉姫命 神体 鏡

一、神位 不分明

一、社 一尺八寸 二尺

一、社地 一反歩十五間・二十間除地ノ訳不分明

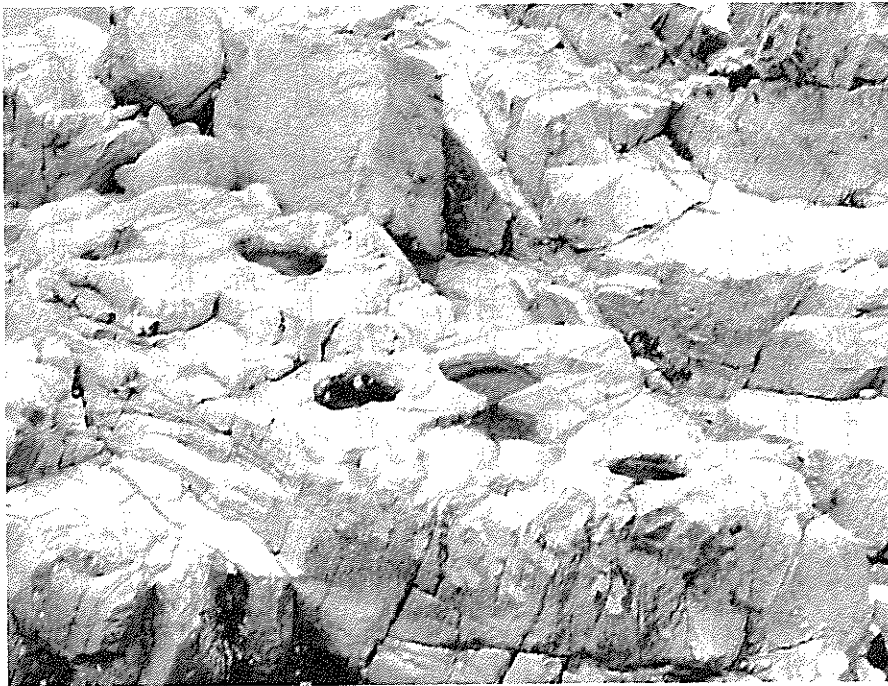
一、祭日 九月十九日

と記録されている。社の奥の、奥ノ院といわれる所には、岩に大小十二個の鍋のような穴が有り、村人達は、この穴にさわると神罰を受けて、大雨が降ったり、洪水になると語り伝えられている。

昭和初めのころ、奥ノ院のある谷の国有林で働いていた人達が、この鍋を掃除したところ大雨がこの谷だけ降り出して、谷川を渡ることも出来ないほど増水し、山小屋へ帰るのに尾根越えをして小屋に帰り大変困ったという話を聞いた事がある。

三年程以前に氏子役員の人達とこの奥の院へ行った時の事であるが、社跡より林道を登り、川を渡って左手の谷を約二時間ほども登って行っただろうか、谷間に奥ノ院というところがあった。

谷川の中の玄武岩であろうか黒いツルツルした岩に、大小七、八個、少し下流の方は岩が土砂に埋って語り伝えられている十雨 二個もは確認する事は出来なかつた。



鍋

流れに浸食されて出来たのか、風化して出来たのか、見当も付かないが、中を見ると鍋を想像するようきれいな鷗穴が出来ていた。また鍋ヶ森神社跡境内左手の川岸にも全く同じ様な岩があり、よくみると、鷗穴が二、三個確認出来た。

この附近の鍋が谷川を境内より見ていると森の木の間から見る清流は、伊勢神宮の五十鈴川を連想させるようである。

神社跡を約四キロ余り下った西河内部落の中程には、千種村

誌に記録されている鍋ヶ森神社の祭主佐藤盛唯の墓と云われる宝篋印塔が建っている。

昔から人々の生活の中で関係の深い水、その水も年により旱魃が続くと、自然相手の生活の中での水不足は本当に深刻な問題であっただろう。

いつの時代から起って来たのか雨乞の方法が行なわれた。鍋ヶ森神社と雨乞の関係も又、村誌に記されているところによると、

豊玉比賣命ハ大綿津見命ノ御子ニシテ天照大神ノ御子彦彦出見命ノ后神ナリ大綿津見命ハ海ヲ掌リ玉エル神ニアレバソノ縁リヲ以テ……………

と水との関りを付けている。

資料収集で、町内の古文書を調べていると、時々雨乞の記録をみる事がある。明治九年（一八七六）の旱魃は特に厳しかつたらしく、岩野辺庄屋一坪門藏神日記の中にも次の様に記されている。

記

明治九子年大旱魃に田方の水、日本国々大なんぎ致しあまごい記しおきそうろう。

一、四月五日 二宮様にてあまごい

一、四月六日 西河内なべが森参り

一、四月七日 当村小河内岩ヶ谷にて千駄たき

一、五月十四日 上松山千駄たき

一、五月十八日 同所にて千駄たき

一、五月二十四日 室村日名倉山参り

但し室村、七野、黒土、町、西山、岩野辺六

カ村

河呂村笛石上千駄たき

一、五月二十五日 徳久の上の滝参り

一、五月二十七日 上松にて千駄たき

一、五月三日 大森宮様

右下河野より奥八カ村西蓮寺様の頭より

参人より水かけ五、六石ほど、外中の寺方御

殿にて勤被致そうろう

一、五月六日 小河内滝参り。

二カ所千駄たき

一、五月四日 西山村嶋谷滝にて町、黒土、室、西山ノ五ヶ村

寄合

千駄たき

一、五月九日 上松山にて千駄たき

新宮外拾組、老組二式人宛 二十二人宛

毎日西河内なべが森参り

又、村中二人鍋ケ森、東河内かなべの滝両所

日参り村中廻り参りさうろう事

一、五月九日より雨ふり始め十七日まで、内十五、六日大雨降り

また同年の西河内村、民費受払帳の中にも次のように記録されている。

同二十五日

金、三円四拾四銭、殊ことのほか旱魃につき田畑の作物、木、枯死するに立ちいたり雨乞当村鍋ケ森大明神に祈念いたし上ノ山において薪百二十駄たき申し候につき右樵人足三十四人分

村中の人々が雨を待ち望んで、あらゆる雨乞祈願を行っている様子がうかがえる。

それぞれ順番に鍋ケ森神社や滝へ日参りをしたり村中総出で氏神様へ集まり雨乞踊を行っていたらしい。

現在鍋ケ森神社の合祀されている峯王神社にはその様子を書いた絵馬、長さが二メートル余りの大きな「しゃもじ」が三本、雨乞成就に奉納されたものであろう。

しゃもじにはそれぞれ奉納者の名前が次の様に書いてある。

雨 乞  
明治十四年十月 日

奉納 当所寺谷亥年男

奉納 佐用郡徳久村東徳久部落

昭和十四年八月上弦じょうげん

奉納 佐用郡徳久村西徳久横畑

高い山の上で大きな、たき火をする千駄たきもそれぞれつい最近まであちこちで行われていたようである。各戸より寄り集まり、山頂で木を集めにぎやかに千駄たきを行っている様子が「門藏袖日記」にも次のように書いてある。



しゃもじ

二十四日 室村、日名倉山参り

但し室村、七野、黒土、町、西山、岩野辺六ヶ村  
の平ころび候、

また 黒土道ノ上の佐造と申す人、大酒のみ大病やまひに候、西山重  
五郎と申す人、大酒のみあわせて三人かごにのり戻り候。

酒、山あけ、四斗

宮にて二斗

メ六斗のみ申す事



西河内峯王神社